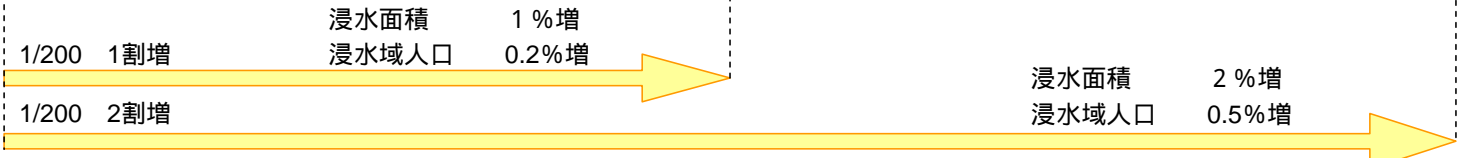
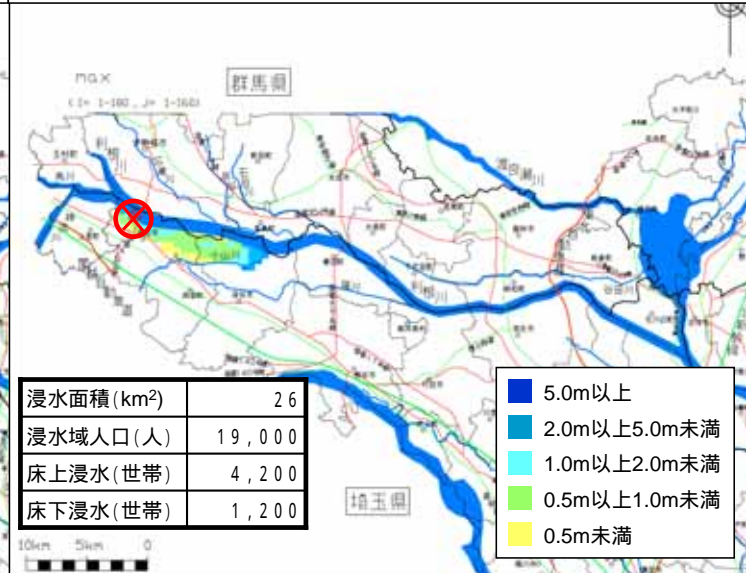


# 利根川浸水想定の洪水規模の違いによる感度分析(案)

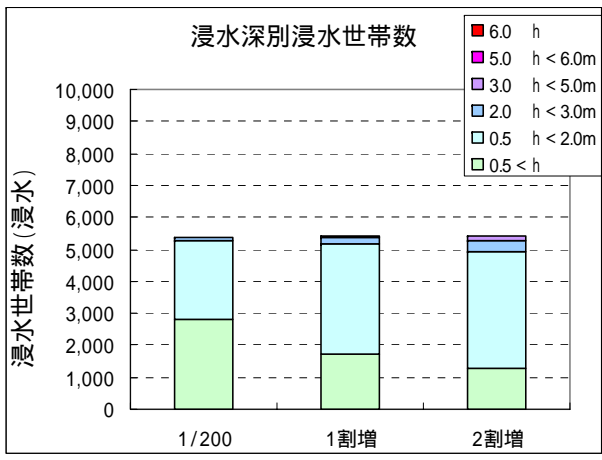
A:200年に1回の確率で発生する洪水流量  
(22,000m<sup>3</sup>/s)

B:約1割増の洪水流量(24,000m<sup>3</sup>/s)  
(およそ500年に1回の確率で発生する洪水流量に相当)

C:約2割増の洪水流量(26,000m<sup>3</sup>/s)  
(およそ1,000年に1回の確率で発生する洪水流量に相当)

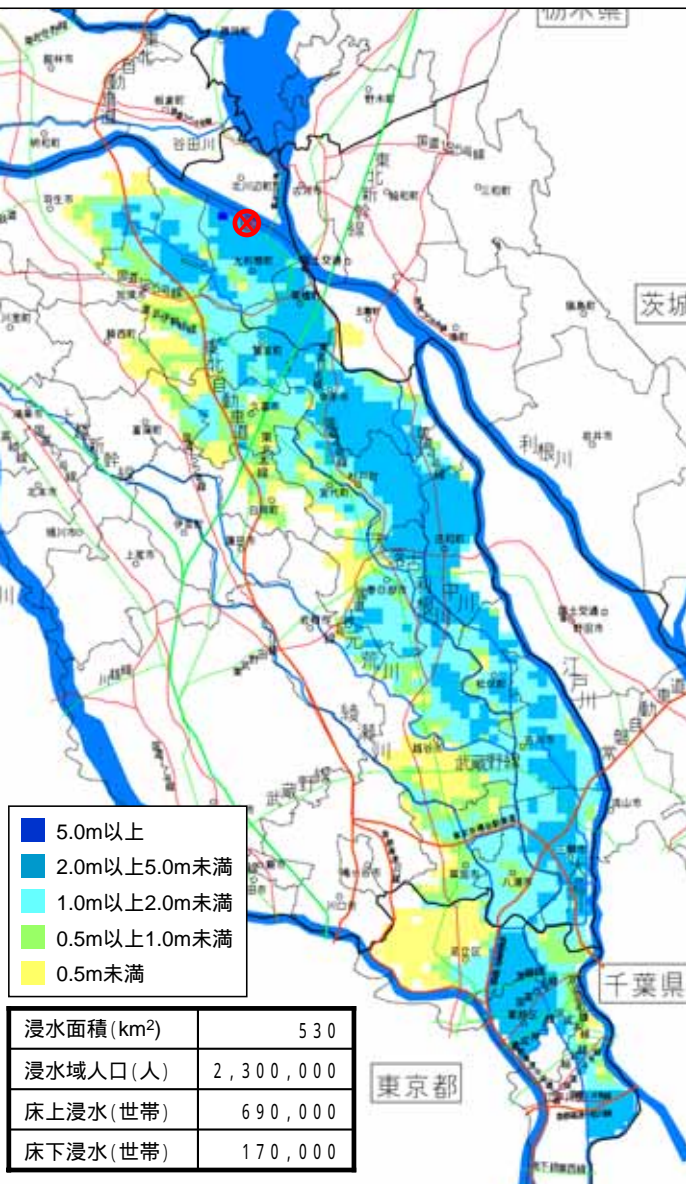


注: 図中の数字は、有効数字2桁により四捨五入した数値となっている。このため、浸水面積、浸水域人口の増加割合と一致しない場合がある。

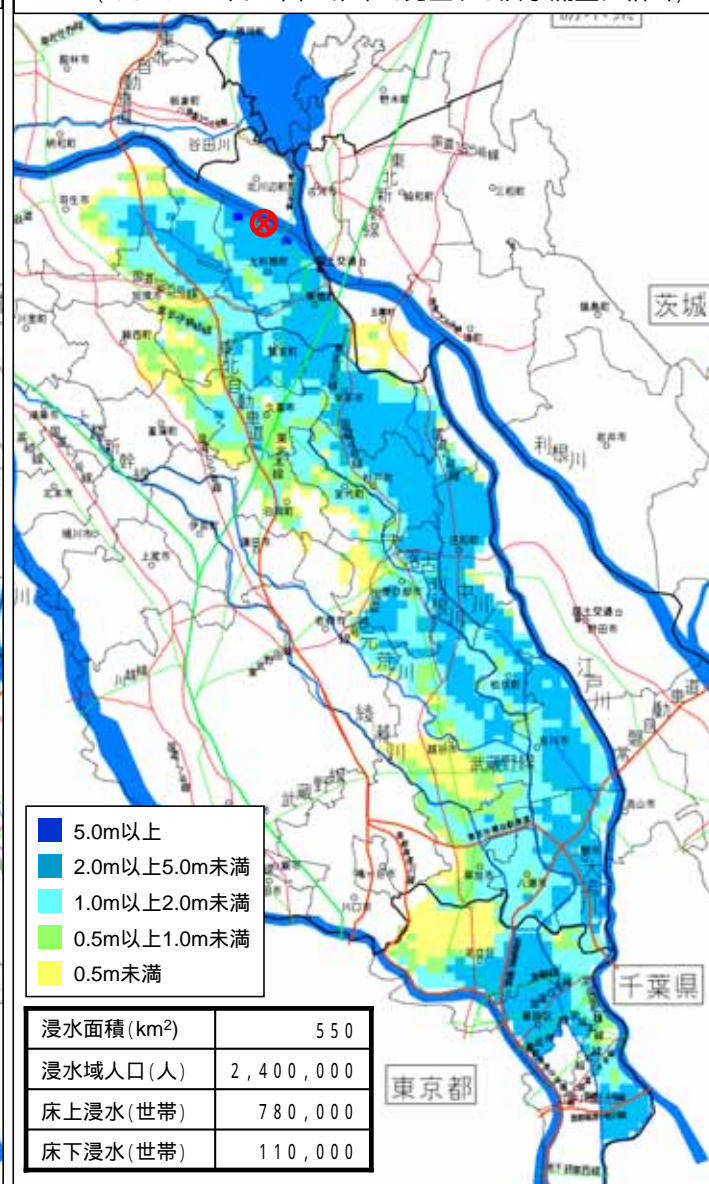


注) 本資料における洪水流量は、河道整備が完了した時点において、ダム、調節地などの洪水調節施設効果を見込まない場合の流量を記載。浸水想定作成時は、洪水著し節施設等の効果を見込み氾濫計算を実施している。

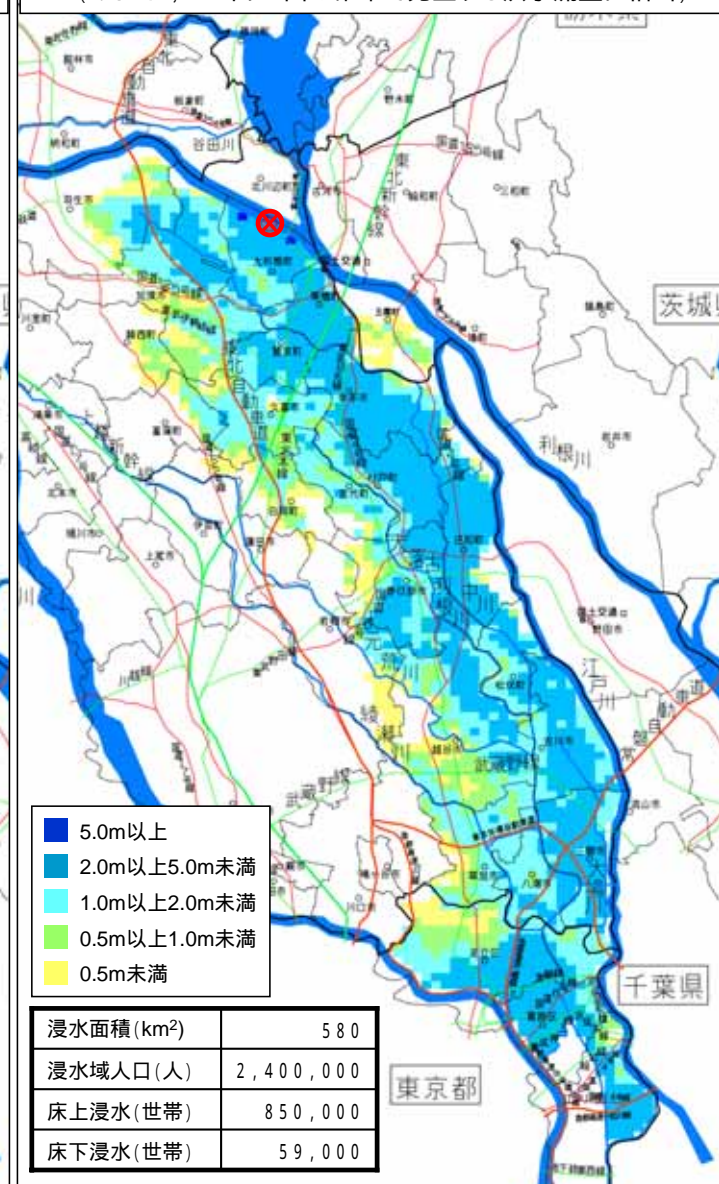
A:200年に1回の確率で発生する洪水流量  
(22,000m<sup>3</sup>/s)



B:約1割増の洪水流量(24,000m<sup>3</sup>/s)  
(およそ500年に1回の確率で発生する洪水流量に相当)



C:約2割増の洪水流量(26,000m<sup>3</sup>/s)  
(およそ1,000年に1回の確率で発生する洪水流量に相当)



1/200 1割増 浸水面積 3%増  
1/200 2割増 浸水域人口 3%増

浸水面積 8%増  
浸水域人口 5%増

# 首都圏広域氾濫

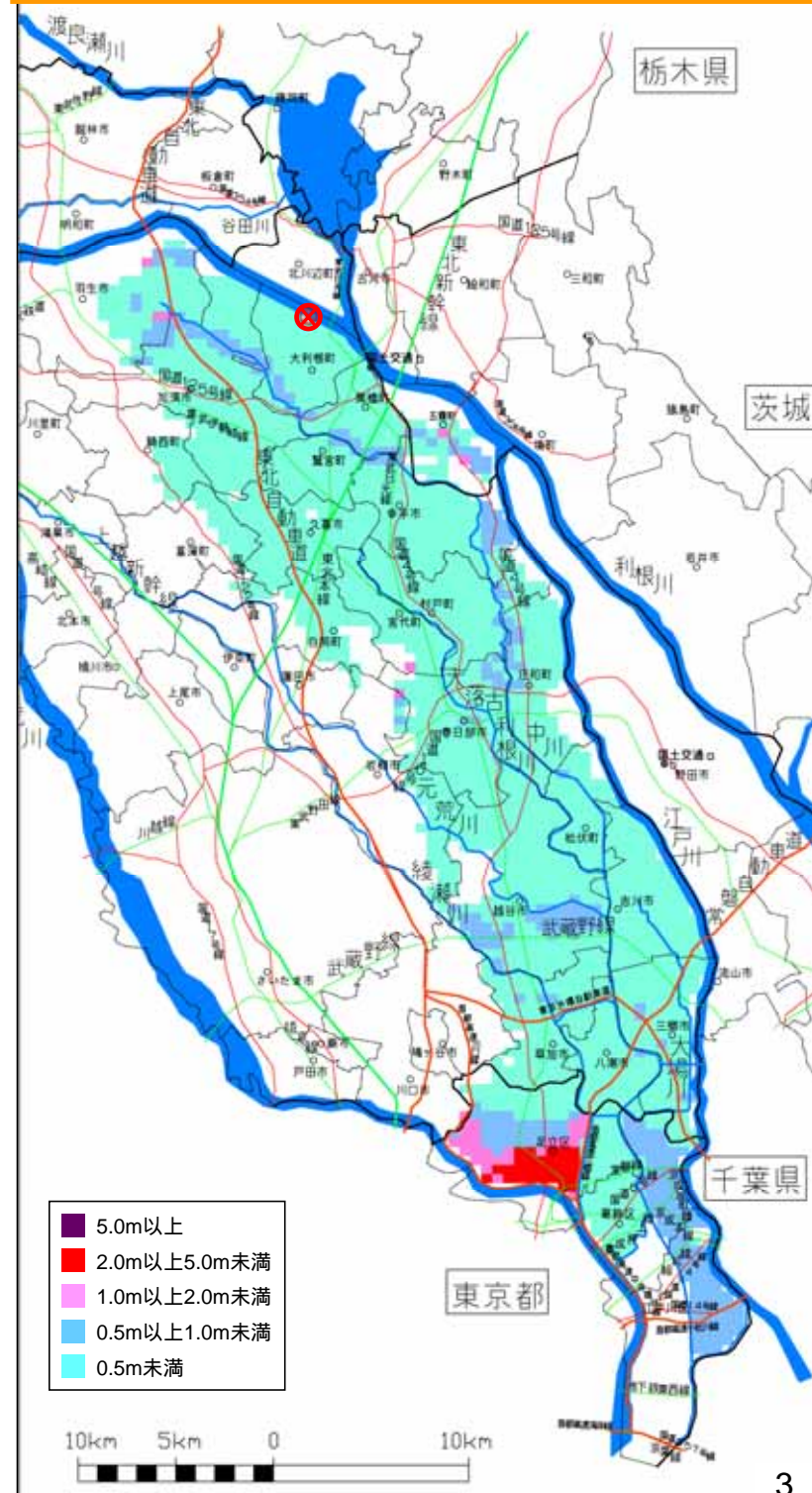
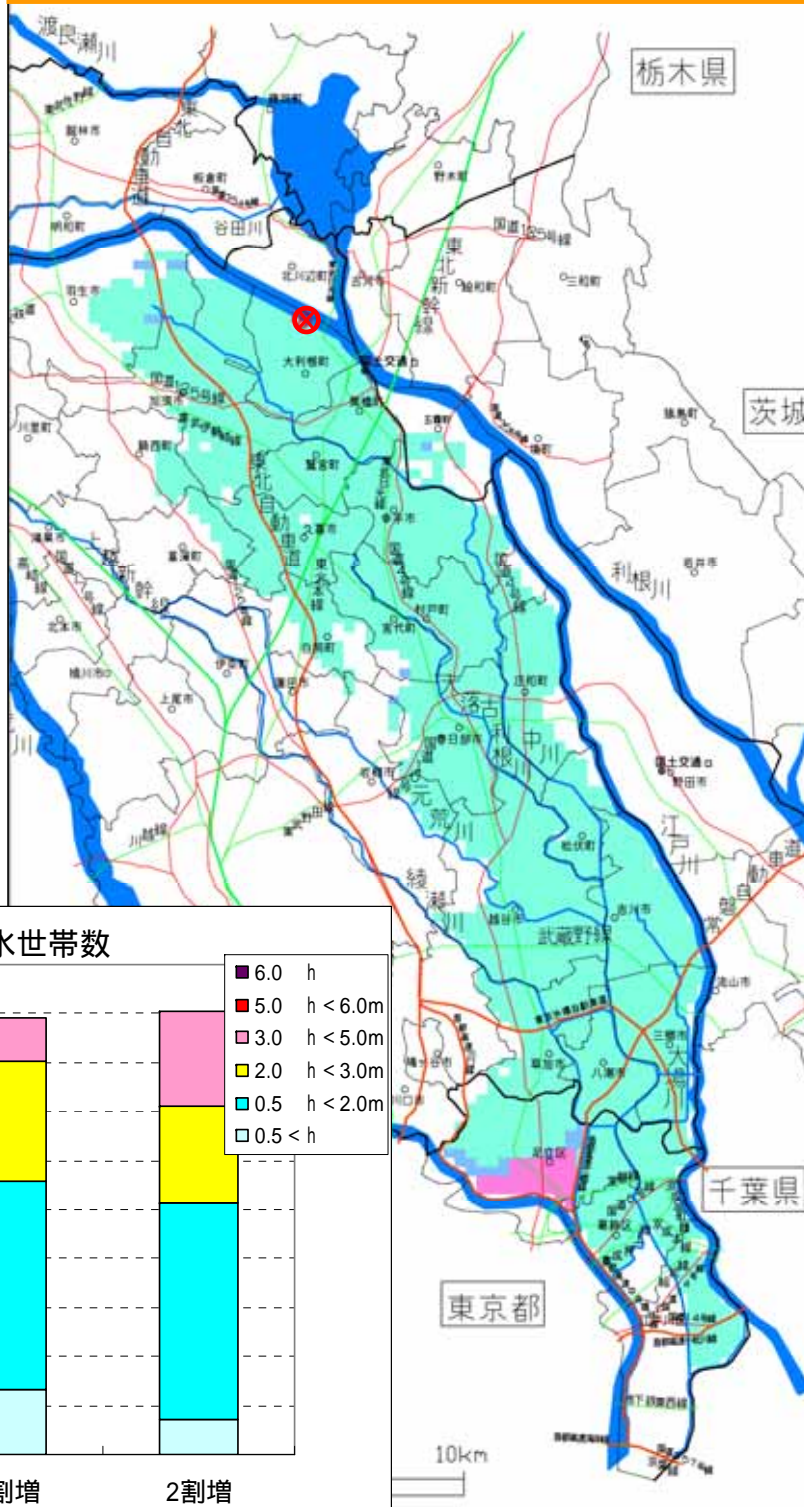
# AとBの最大浸水深の差

# AとCの最大浸水深の差

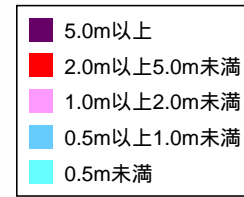
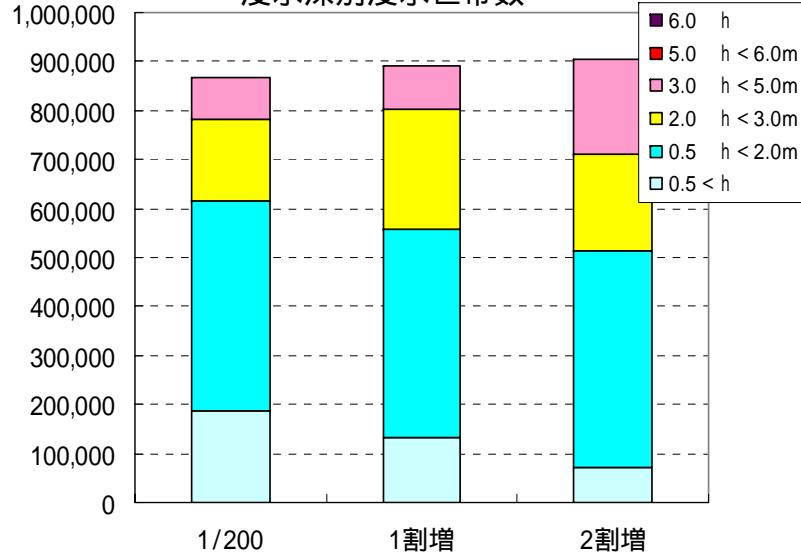
A:200年に1回の確率で発生する洪水流量  
(22,000m<sup>3</sup>/s)

B:約1割増の洪水流量  
(24,000m<sup>3</sup>/s)

C:約2割増の洪水流量  
(26,000m<sup>3</sup>/s)



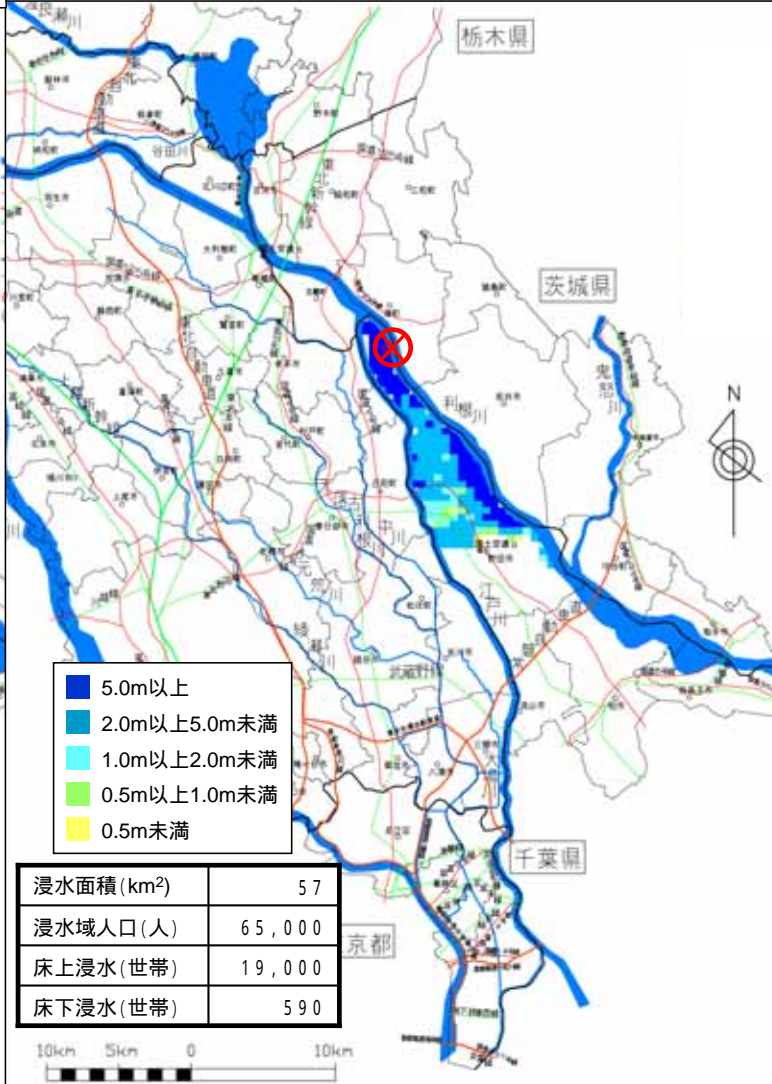
浸水深別浸水世帯数



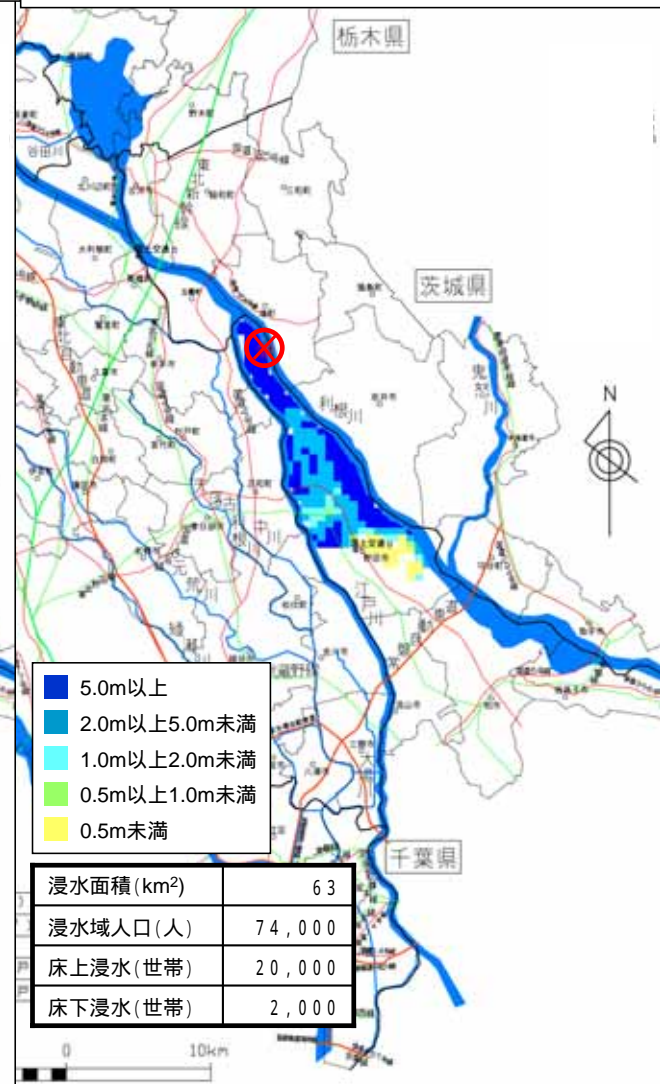
A:200年に1回の確率で発生する洪水流量  
(22,000m<sup>3</sup>/s)



B:約1割増の洪水流量(24,000m<sup>3</sup>/s)  
(およそ500年に1回の確率で発生する洪水流量に相当)



C:約2割増の洪水流量(26,000m<sup>3</sup>/s)  
(およそ1,000年に1回の確率で発生する洪水流量に相当)



1/200 1割増  
浸水面積 3%増  
浸水域人口 6%増

1/200 2割増

浸水面積 15%増  
浸水域人口 21%増

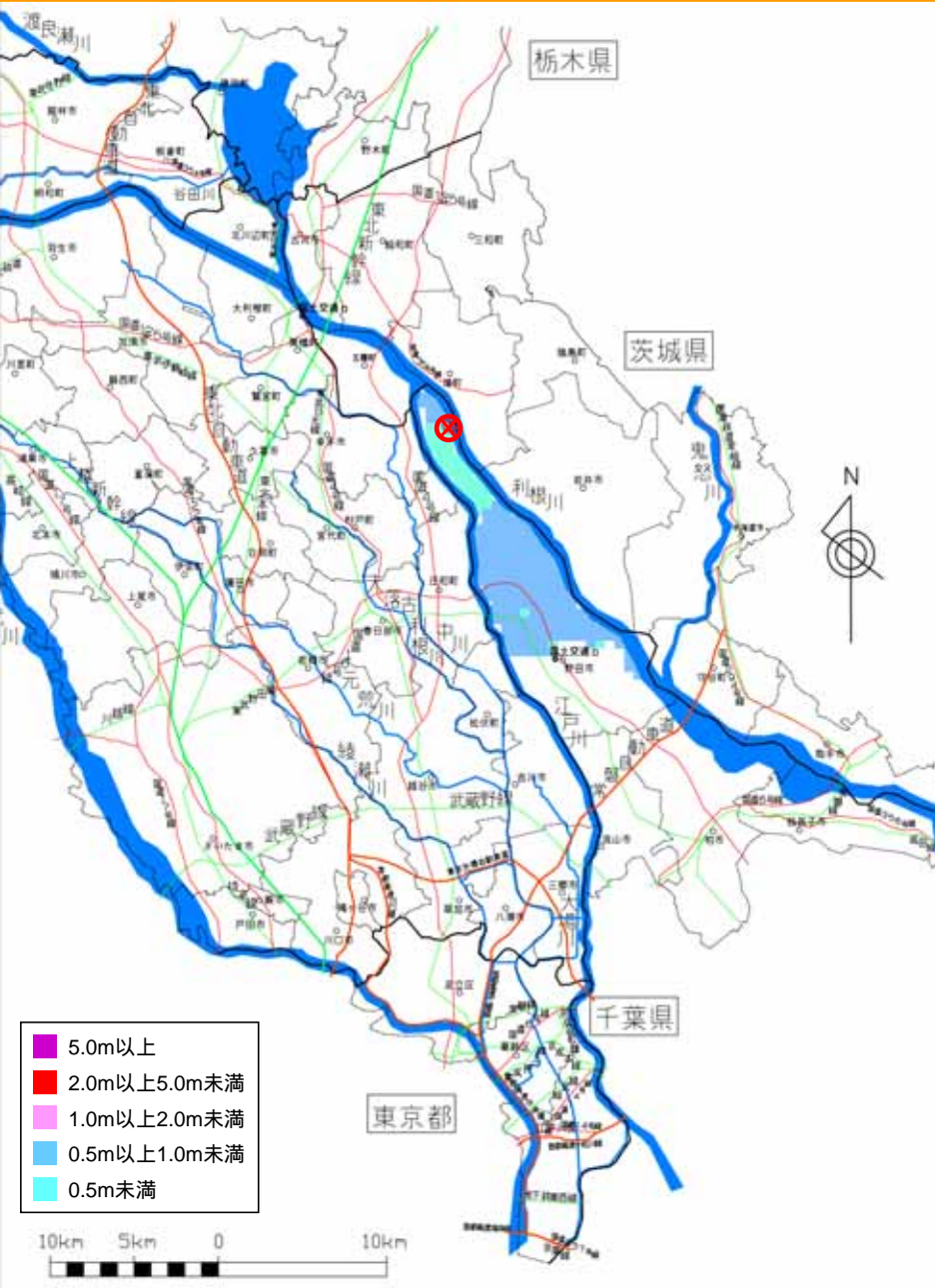
# 野田貯留型氾濫

A: 200年に1回の確率で発生する洪水流量 (22,000m<sup>3</sup>/s)

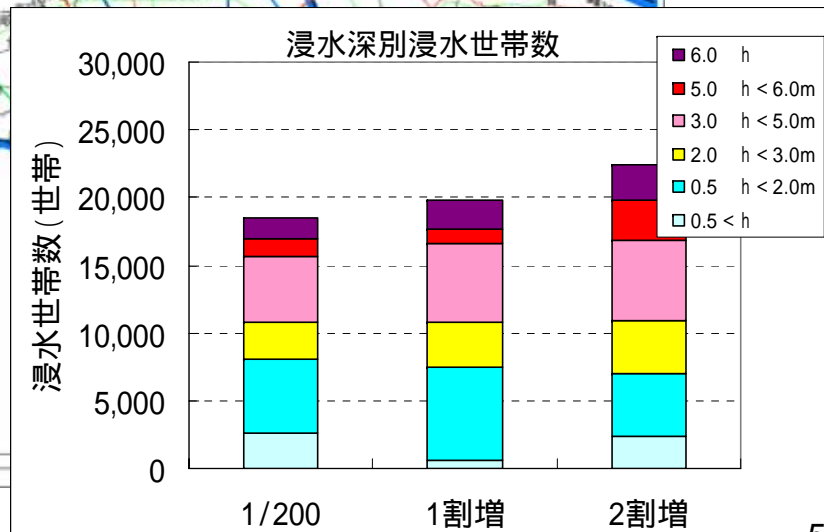
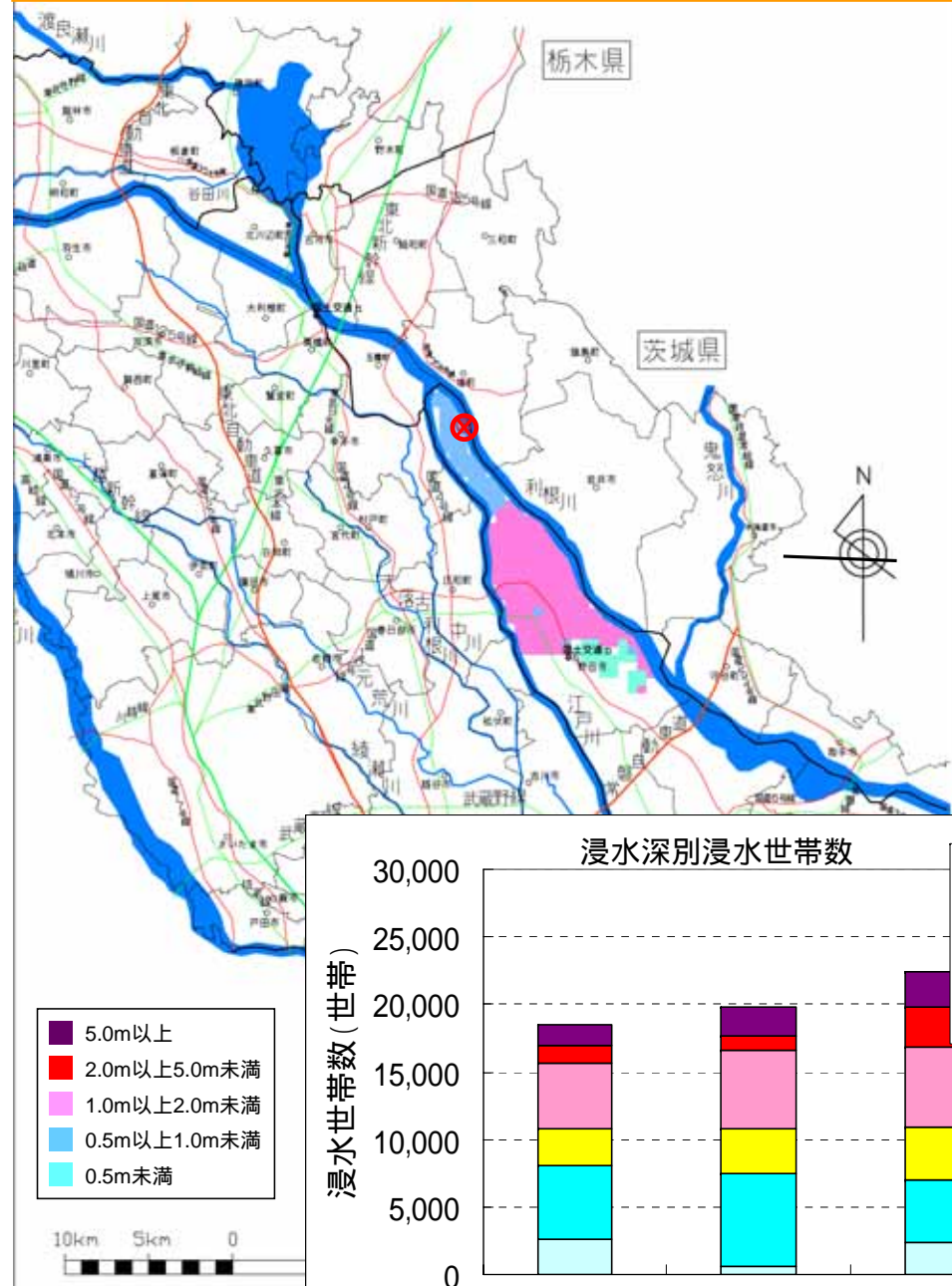
B: 約1割増の洪水流量 (24,000m<sup>3</sup>/s)

C: 約2割増の洪水流量 (26,000m<sup>3</sup>/s)

## AとBの最大浸水深の差



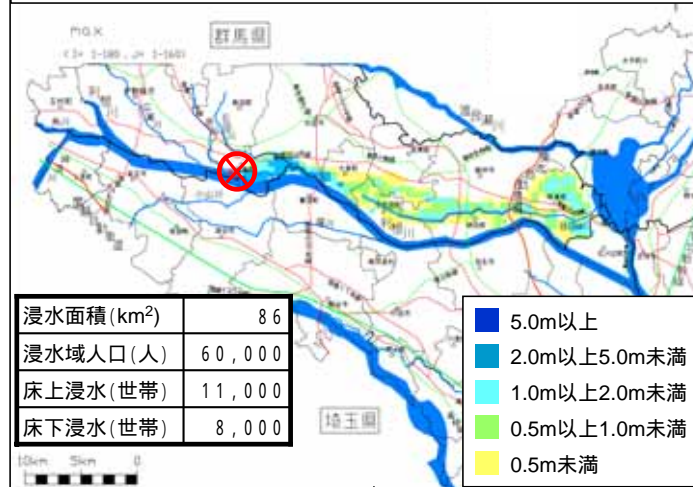
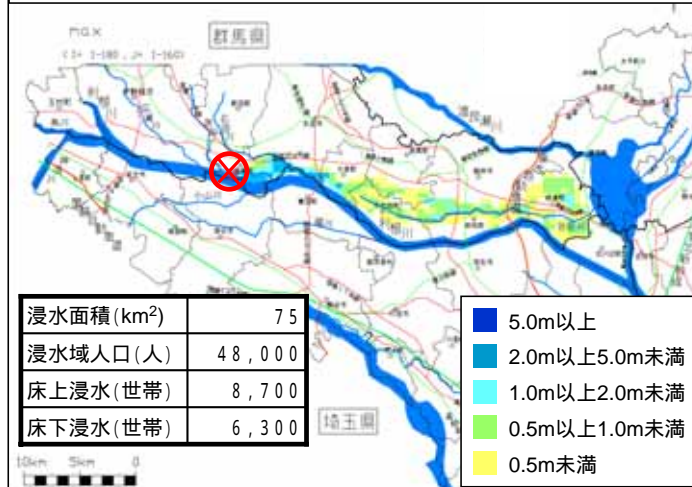
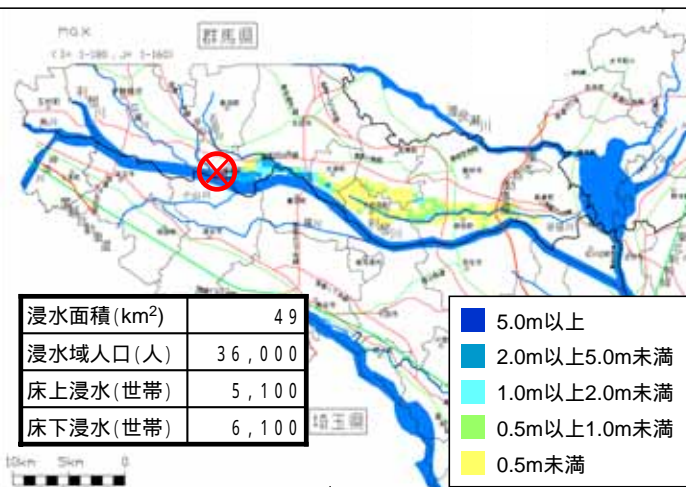
## AとCの最大浸水深の差



A:200年に1回の確率で発生する洪水流量  
(22,000m<sup>3</sup>/s)

B:約1割増の洪水流量(24,000m<sup>3</sup>/s)  
(およそ500年に1回の確率で発生する洪水流量に相当)

C:約2割増の洪水流量(26,000m<sup>3</sup>/s)  
(およそ1,000年に1回の確率で発生する洪水流量に相当)



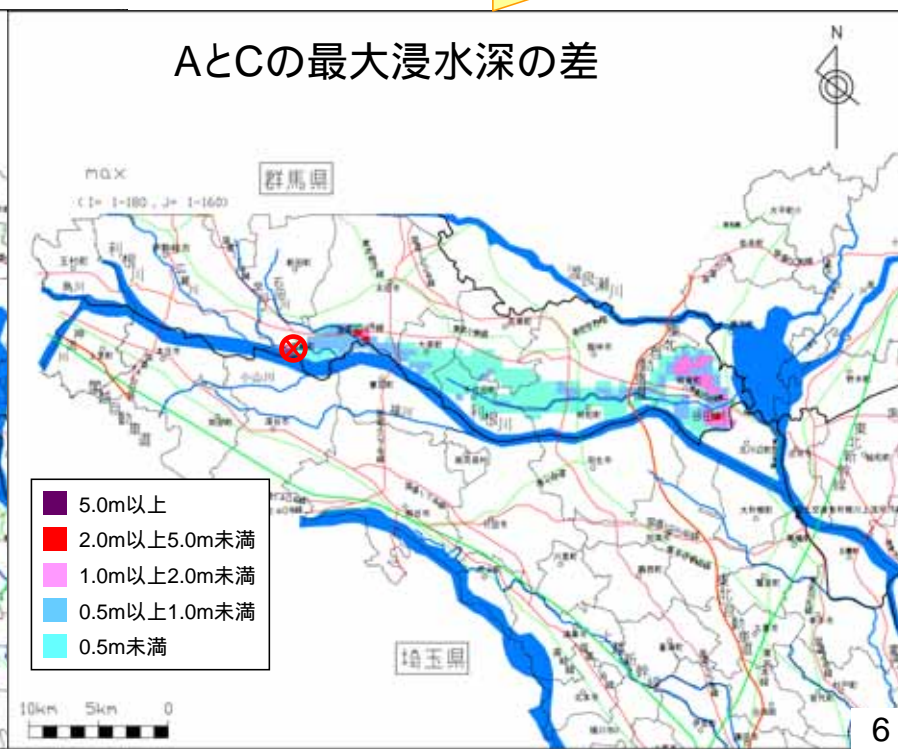
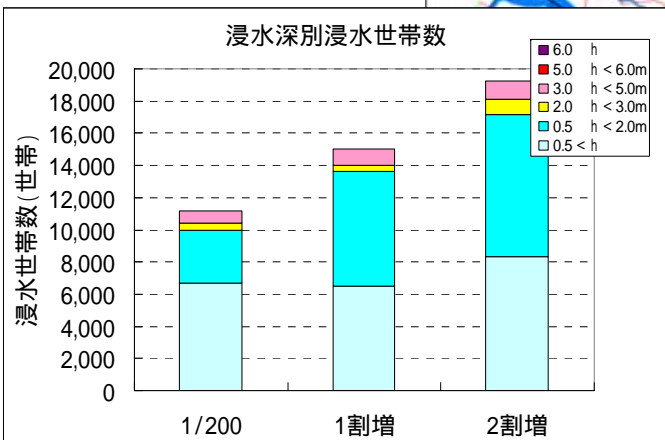
1/200 1割増 浸水面積 53%増  
 1/200 2割増 浸水域人口 34%増

浸水面積 75%増  
 浸水域人口 68%増

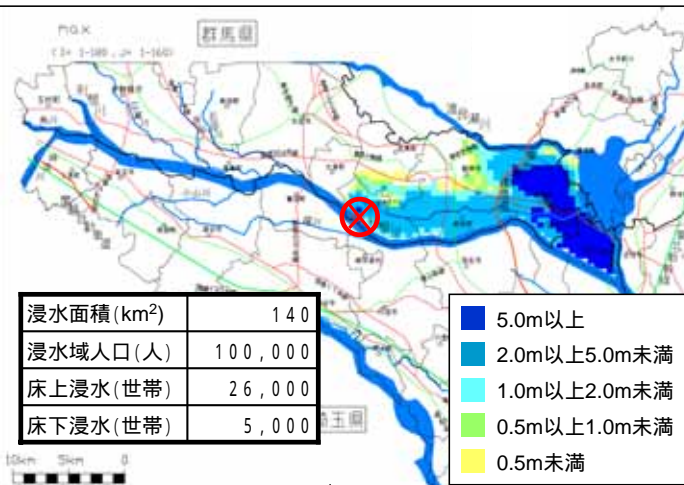
注: 図中の数字は、有効数字2桁により四捨五入した数値となっている。このため、浸水面積、浸水域人口の増加割合と一致しない場合がある。

AとBの最大浸水深の差

AとCの最大浸水深の差

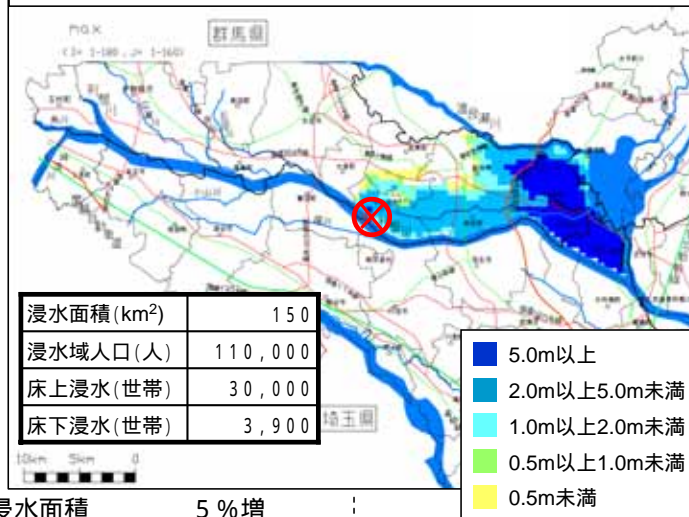


A:200年に1回の確率で発生する洪水  
(22,000m<sup>3</sup>/s)



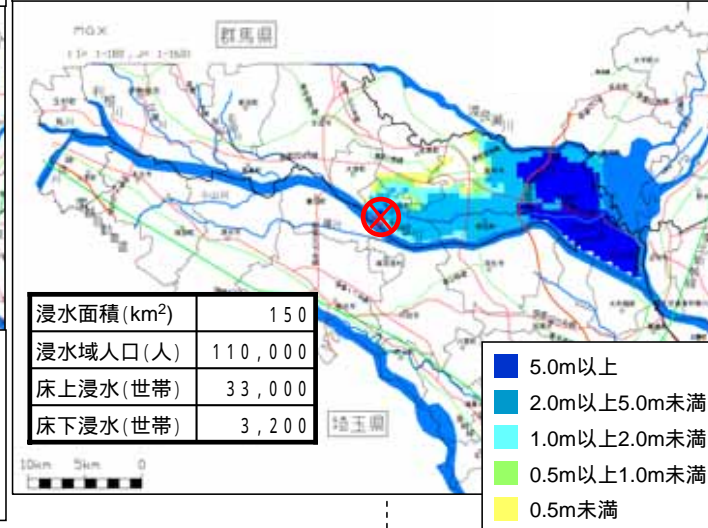
B:約1割増の洪水流量(24,000m<sup>3</sup>/s)

(およそ500年に1回の確率で発生する洪水流量に相当)



C:約2割増の洪水流量(26,000m<sup>3</sup>/s)

(およそ1,000年に1回の確率で発生する洪水流量に相当)



1/200 1割増

浸水面積 5%増  
浸水域人口 7%増

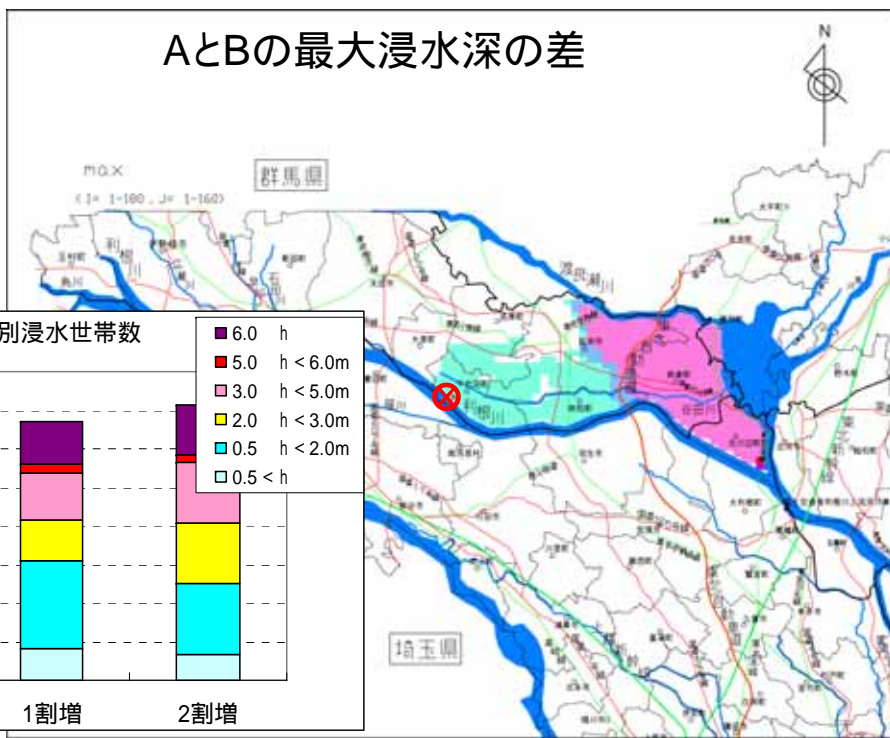
1/200 2割増

浸水面積 8%増

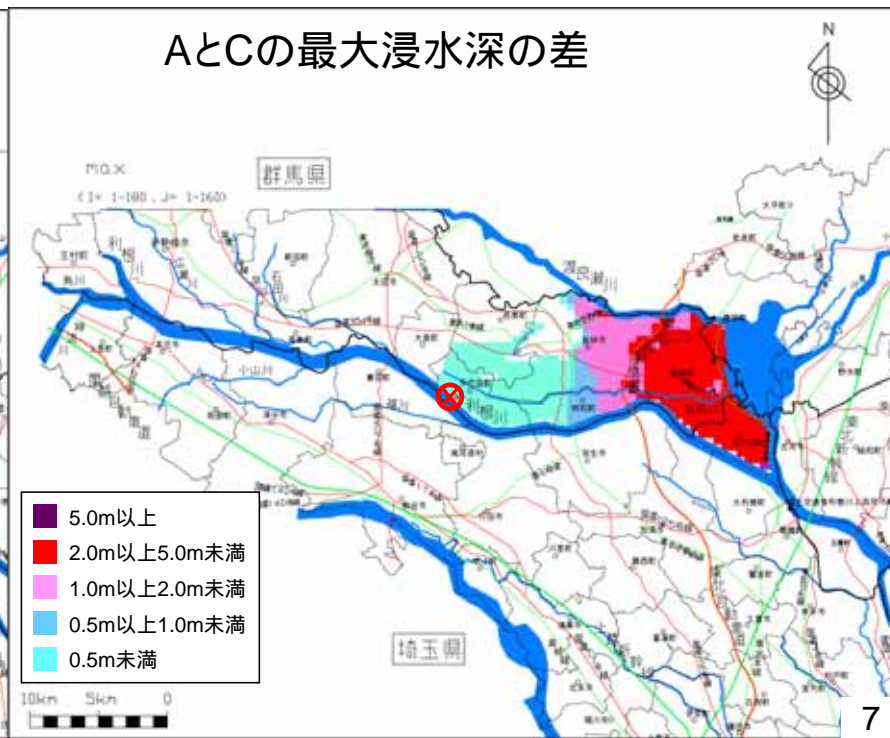
浸水域人口 14%増

注: 図中の数字は、有効数字2桁により四捨五入した数値となっている。このため、浸水面積、浸水域人口の増加割合と一致しない場合がある。

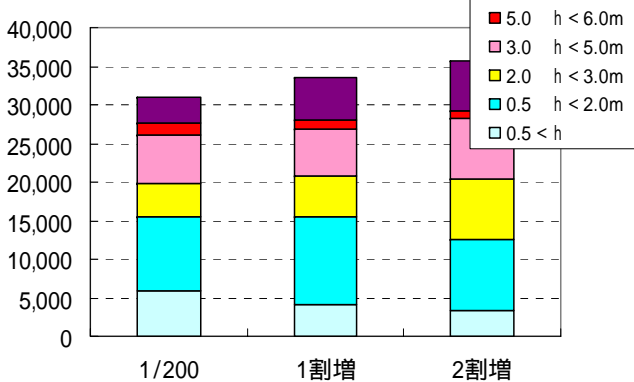
AとBの最大浸水深の差



AとCの最大浸水深の差

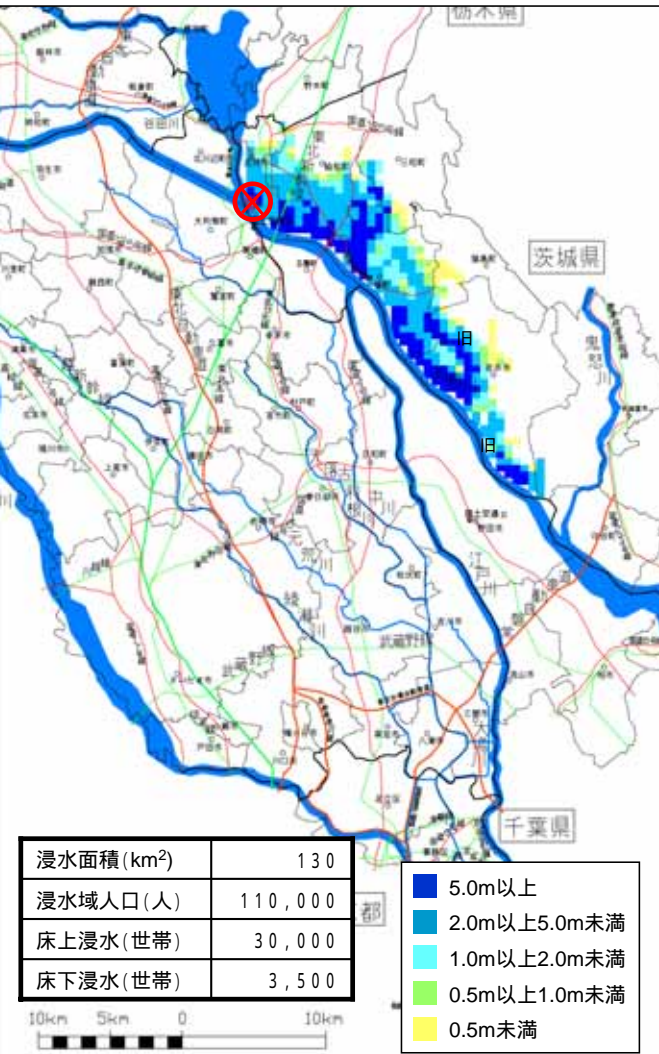


浸水深別浸水世帯数

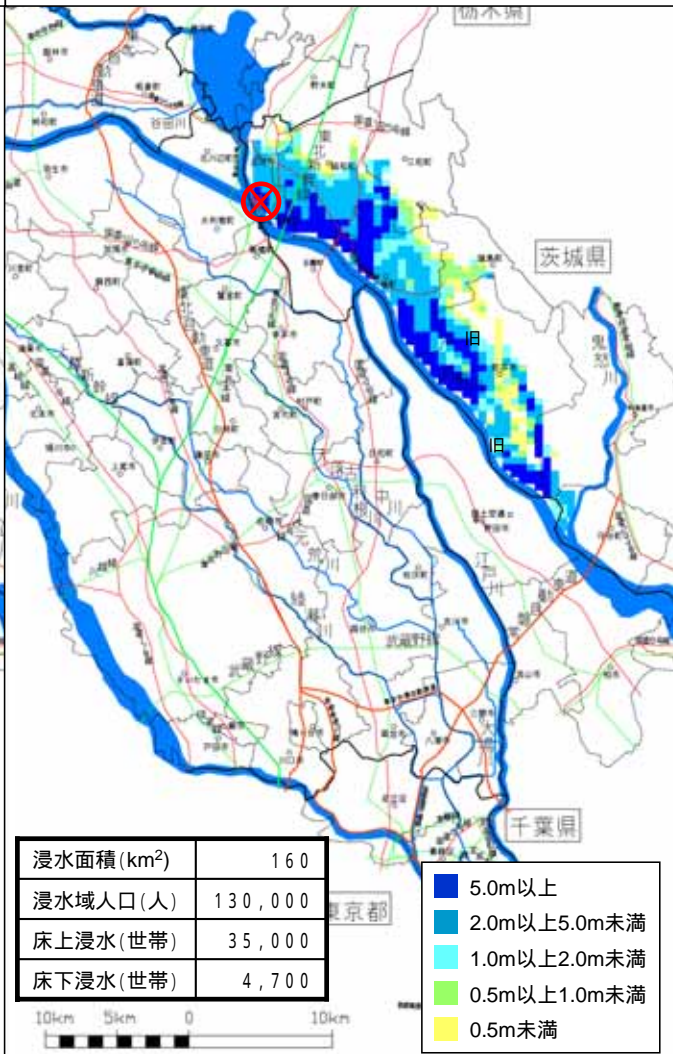




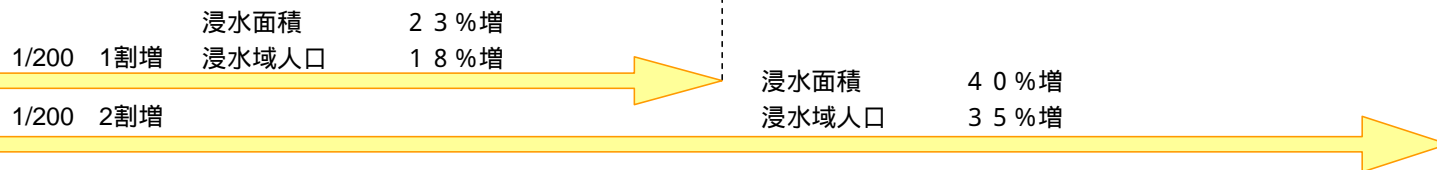
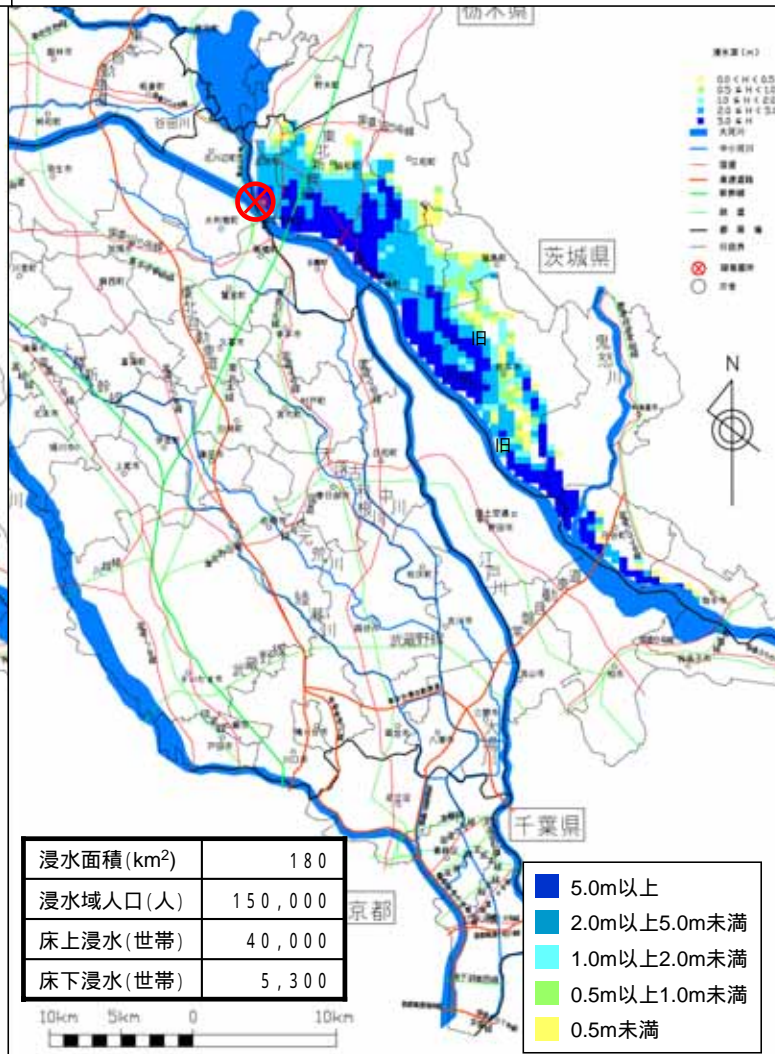
A:200年に1回の確率で発生する洪水流量  
(22,000m<sup>3</sup>/s)



B:約1割増の洪水流量(24,000m<sup>3</sup>/s)  
(およそ500年に1回の確率で発生する洪水流量に相当)



C:約2割増の洪水流量(26,000m<sup>3</sup>/s)  
(およそ1,000年に1回の確率で発生する洪水流量に相当)



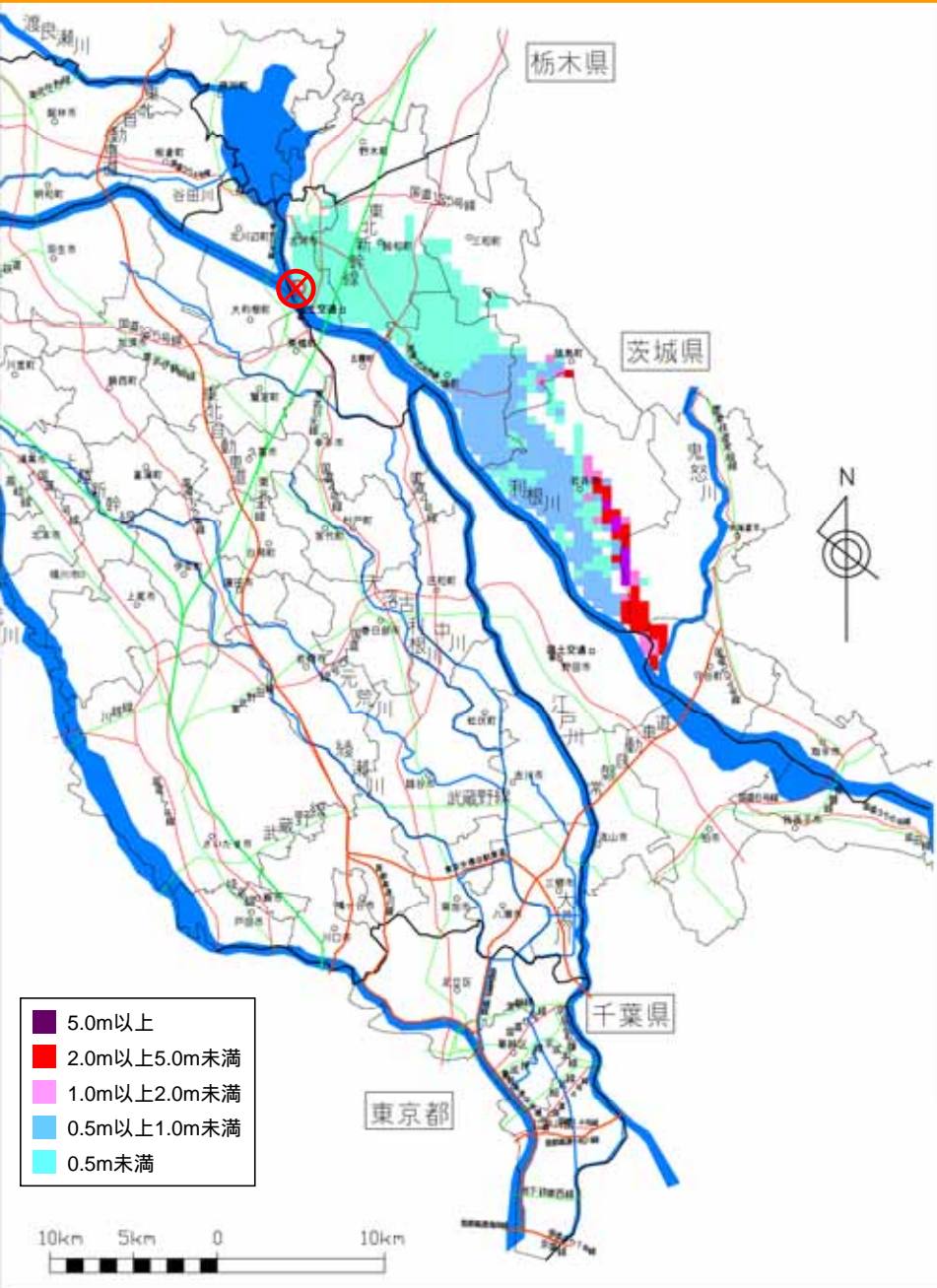
注: 図中の数字は、有効数字2桁により四捨五入した数値となっている。このため、浸水面積、浸水域人口の増加割合と一致しない場合がある。

A:200年に1回の確率で発生する洪水流量 (22,000m<sup>3</sup>/s)

B:約1割増の洪水流量 (24,000m<sup>3</sup>/s)

C:約2割増の洪水流量 (26,000m<sup>3</sup>/s)

AとBの最大浸水深の差



AとCの最大浸水深の差

